

【事業概要】

マチ類生態に考慮した資源管理手法の開発 (水産海洋研究費 (県単独事業))

吉田 聡*, 中田祐二¹, 南 洋一²

本調査は、マチ類の標識放流や卵稚仔調査手法を開発し、移動生態や卵稚仔補給機構を解明することで、マチ類資源の回復に資することを目的に 1) 標識放流手法の開発, 2) 卵稚仔調査手法の開発, 3) 年輪の有効性検証の取組を行った。

2020 (令和 2) 年度は、7 月および 8 月にマチ類資源保護区の北タイキユ曾根、第 2 多良間堆において、11 月および 12 月にマチ類資源保護区のイチャビラーにおいて、漁業調査船「図南丸」により底立延縄を用いて調査操業を行い、9 月、2021 年 1 月および 2 月に沖縄本島本部町地先海域において用船による一本釣調査を行った。

標識放流手法開発では漁獲されたマチ類のうち、活力を確認した個体に標識を施し放流を行った。

2020 年 7 月、8 月調査ではヒメダイ 6 尾、アオダイ 8 尾、オオヒメ 13 尾、ハマダイ 1 尾に標識を行い海面及び水深 100m にて放流を行った。

11 月、12 月調査ではヒメダイ 4 尾、オオヒメ 12 尾に標識を行い海面及び水深 100m にて放流を行った。

2021 年 1 月、2 月調査ではヒメダイ 16 尾に標識を行い海面にて放流を行った。

卵稚仔調査手法の開発では、マチ類の産卵時期である 7 月、8 月調査において傾斜曳きによる卵稚仔ネット採集を 18 回実施した。

また、年輪の有効性の検証については、OTC (オキシテトラサイクリン) の影響の確認を行うため、2020 年 9 月調査にて採捕したアオダイ 5 尾、ヒメダイ 19 尾の計 24 尾に OTC を適量打注後、沖縄美ら島財団の協力により同財団の陸上水槽により約 1 ヶ月間飼育を行った。10 月 20 日に引き取った際には 19 尾 (アオダイ 4 尾、ヒメダイ 11 尾) の生存を確認した。



写真 丸値ネットによる卵稚魚仔採集状況 (左) と釣獲したオオヒメの養生状況 (右)



写真 釣獲したオオヒメのリリーサーを用いた放流状況 (左) と美ら島財団における OTC 打注魚の取り上げの様子 (右)

*E-mail : yoshidsa@pref.okinawa.lg.jp 本所 (現所属 : 沖縄県農林水産部水産課)

¹ 現所属 : 沖縄県農林水産部水産課

² 現所属 : 沖縄県北部農林水産振興センター農業水産整備課